

令和8年度 上田市立南小学校 学校自己評価 中間報告

| 学校教育目標                              |                                                             | めざす子どもの姿                                                             | 総合評価                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                               |
|-------------------------------------|-------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| つよく ただしく あたたかく                      |                                                             | えがお輝く<br>南っ子                                                         | 前期、南小学校では「えがお輝く南っ子」を合言葉に、一人ひとりに寄り添う教育を推進した。授業での視覚支援やICT活用により、児童が学習の見通しを持って安心して学べる環境を整えている。また、学校職員の児童への「さん付け」や丁寧な挨拶による子どもたちへの温かな関わりが定着してきている。一方で、自ら問いを持ち主体的に動き出す力や、家庭と歩調を合わせた生活習慣の確立には依然として伸びしろがある。今後は、築き上げた支援の基盤を土台とし、教育活動をさらに充実させたい。学校と家庭が信頼でつながり、子どもたちの確かな成長を共に支え、喜び合える学校づくりを今後も進めていきたい。□ |                                                                                                                               |
| 目標                                  | 評価項目                                                        | 自己評価の観点                                                              | 成果                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 課題と今後に向けて                                                                                                                     |
| 重点目標<br><br>【自分の考えをもち表現し合う南っ子】      | ■インクルーシブな視点での授業改善                                           | <項目1><br>視覚支援(板書・掲示)やICTを活用し、どの子も学びのプロセスが見通せるメリハリある授業、活動の工夫を設計しているか。 | 板書やICTでの視覚支援により見通しを保障するUD化を推進した。約65%の職員が実践を意識し、児童の不安解消や教職員の負担軽減に繋げることができた。低学年から共通の枠組みを導入し、落ち着いて授業に臨める土台を築いた。                                                                                                                                                                                | 教材研究の時間の確保を課題と捉え、ICTの更なる活用や「問い」を深める授業構想を工夫したい。児童の主体性をより引き出す専門性を磨き、学年や専科を含めたチームで連携して児童の「わかる・できる」授業づくりに邁進していきたい。                |
|                                     | ■授業の3観点を意識した授業づくり                                           |                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                               |
|                                     | ■「考える・聴き合う・伝え合う」活動の重視                                       |                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                               |
|                                     | ■子どもと創り出す探究的な学習の充実                                          |                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                               |
|                                     | ■チーム支援体制の構築                                                 | <項目2><br>学年・学校職員と、児童の情報共有や困りごとの相談を行えているか。                            | 85%を超える職員が円滑な情報共有を実感しており、迅速なチーム支援の基盤を構築した。特別支援コーディネーター等とも密に連携し、児童の特性を多角的に理解する意識を浸透させた。全職員で全ての児童を見守る温かな土台を確立できた。                                                                                                                                                                             | 多忙な中でも情報の質を落とさず、よりタイムリーに共有できる効率的な仕組みを整えたい。学年を越えた連携をさらに深め、学校全体できめ細やかな支援を継続できるよう、共有のあり方を職員一丸となって改善し続けていく。                       |
| 自分づくり<br><br>【どんどん磨き合い】             | ■気づき清掃の推進                                                   | <項目3><br>児童への清掃、健康、望ましい生活習慣への意識づけや指導を行えているか。                         | 同じ清掃モデルの指導を統一し、「ひざつき清掃」を全学年で実施している。手洗いや歯磨きの習慣化も、約74%の職員が視覚支援等で意識づけを行い、健康への関心を高めている。日常生活の中で、基本スキルの習得を着実に進めることができた。                                                                                                                                                                           | 児童が自律的に理由を考えて行動できる「自律の心」を育む指導をさらに追求したい。日々の肯定的な声掛けを大切にしながら、児童が自分たちで判断して動ける力を共に育めるよう、柔軟で粘り強い指導のあり方を追求していきたい。                    |
|                                     | ■体力や健康への意識を高める                                              |                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                               |
|                                     | ■望ましい生活習慣の育成                                                |                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                               |
| 南小の宝<br><br>【にこにこ響き合い】              | ■道徳・人権教育・特別支援教育の充実                                          | <項目4><br>児童に対し、自ら「さんづけ」で呼ぶ、自ら挨拶をする、など、手本となる行動を継続しているか。               | 職員の「さん付け」や丁寧な挨拶の実践は全職員が意識しており、受容的な雰囲気醸成した。大人の手本提示が児童の言葉遣いを学ぶ好機となり、信頼関係の構築や情緒の安定につながった。落ち着いた学校生活の基盤を児童に示している。                                                                                                                                                                                | 温かな挨拶の文化を広げるため、職員自身も関わりを振り返り、児童との対話を大切に積み重ねたい。相手を尊重する心が児童の中に根付くよう、授業や児童会活動、地域を学ぶ機会の中で、相手意識を持てる活動を実践していきたい。                    |
|                                     | ■あいさつ・歌声の充実                                                 |                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                               |
|                                     | ■児童会を中心とした学校生活・交流活動の充実                                      | <項目5><br>児童の主体的な交流活動の支援をしているか。                                       | ペア学習等を通じ、相手を尊重する姿勢を育んだ。約58%の職員が交流支援を実践し、子どもたち同士の温かな声掛けや自然な交流を促した。互いの良さを認め合い、他者と協力して取り組む力の成長を、組織的に支えることができた。                                                                                                                                                                                 | 児童の自発的な思いを引き出すため、活動場面や問いかけの工夫を全校で研究したい。誰もが安心して笑顔で協働できる集団づくりを目指し、現状の課題を全職員で共有しながら、一人ひとりに寄り添ったきめ細かな支援を充実させていきたい。                |
|                                     | ■自己肯定感向上に向けた取組の充実                                           |                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                               |
| 家庭・地域との連携<br><br>～ひらく・つながる・ともに創る南小～ | ■学校運営委員会・南っ子応援隊との連携<br><br>■家庭・PTAとの連携<br><br>■地域(中学校区)との連携 | <項目6><br>生活習慣の確立について学校で指導したり、家庭と連携をとったりしているか。                        | 連絡帳等で保護者と密に連携し、児童の良さを積極的に共有した。また、学校保健委員会による講演会の実施や、学校だより等で家庭への情報発信を実施している。課題についても早期に相談を行い共通理解を図る土台を築いた。学校と家庭で歩調を合わせ、一人ひとりを支えるための基盤を確立できた。                                                                                                                                                   | メディアとの関わりや生活リズムの課題改善に向け、より実効性のある連携方法を模索したい。児童の将来の自立を見据え、更なる情報発信のあり方を工夫していく。保護者の皆様と共に歩む教育活動を実現するため、協力体制を丁寧に築いていくことを今後も続けていきたい。 |